



2024（令和6）年度

# 二中だより



第17号 2024（令和6）年7月18日 発行責任者 加賀谷 登

## 校内人権作文意見発表会及び意見交換会 7月9日（火）5・6校時



今回は、1年1組 横田 朱音 さんの「人種差別をすると・・・。」、3年1組 植木 優希菜 さんの「私が繋いでいきたいこと」を掲載します。

### 人種差別をすると・・・。

1年1組 横田 朱音

私が沖縄に行った時、家族みんなで写真を撮ろうとしていました。しかし、カメラ台が無いのであきらめようとしていました。すると、黒人の外国人の男性が「私が写真を一枚撮りましょうか。」と英語で声をかけてくれました。私は最初、混乱して何か分からなかったけど、父と母が少し話をしてから、スマートフォンを渡していました。それから写真を撮ってもらい、黒人の男性にお礼を言い、別れました。黒人の男性はとても優しくかったです。私は男性の行動と親の対応を見て見習いたいなあと思いました。

その後には私は、黒人を差別する人はなぜ差別しているんだろうと疑問に思いました。だから、母に聞いてみました。すると、「黒人というだけで白人より劣ると決めつけている人が世界にはいる。」と言っていました。それ以外にも理由があるのかインターネットで調べてみました。黒人と白人の生活習慣や文化の違い、言語の違いなど、たくさんの違いから人種差別は起こるそうです。私は、文化の違いなどだけで差別をする人は、自分の国の文化を否定されても悲しくないのかなと感じました。また、実際にどんな風に人種差別がされているのか気になったのでさらに調べてみると、「黒人少女にメダル授与せず」というニュースの記事が出てきました。これは、アイルランドの体操協会の表彰式で協会の職員の一人在、十数人の白人の少女らにの首に次々にメダルをかける一方、黒人の少女にはメダルをかけないまま順番を飛ばしたということでした。私は、この記事を読んでとても悲しかったです。一生懸命に体操をして表彰されると思っているのに、自分だけメダルを授与してもらえなかったら私も悲しいからです。

他のニュースの記事も調べてみたところ、「アメリカン航空を人種差別で提訴、黒人客3人、体臭の苦情理由に降ろされた」という記事を見つけました。これは、黒人3人が乗っていた機内で体臭に関する苦情があったとして、飛行機から一時的に降ろされたといひます。3人によると今年1月5日にアリゾナ州フェニックスからニューヨークへ向かうアメリカン航空便で、すべての黒人男性が飛行機から降ろされました。3人は知り合いではなく、機内で並んで座ってもいなかったそうです。そして、アメリカン航空の職員は、男性たちを他の便に振り替えようとしたが、この夜にニューヨーク行きの便はありませんでした。この時には、男性たちは降りてきた飛行機の座席に戻ることが許されました。訴訟ではさらに、男性たちが飛行機の外で待っている間、パイロットが乗客に対し、「体臭」が原因で遅れが出ているとアナウンスしていたと指摘しました。原告側は、体臭の苦情は嘘だったと主張しました。私はこの記事を読んで怒りと悲しみの二つの感情が芽生えました。それは、もし「私が日本人だから」や「肌が黒いから」などの理由で飛行機から降ろされ、アナウンスでは体臭がくさいと言われたら、もう一度同じ飛行機に乗るのも恥ずかしいし、自分と席が近くの人に嫌がられるのも悲しくて、差別してきたアメリカン航空の職員にすごく腹が立つと思います。

これらのニュースの記事を読んで、人種差別は絶対にしてはいけないことだと感じました。私が沖縄で会った黒人の男性はとても優しくだったので、人を容姿だけで決めつけないことがとても大切だと改めて気づきました。

また、私の母と父のように、英語で話しかけられても、見た目が外国人でも、慌てずに接したいと思います。これからも人種差別などの差別をすると相手が嫌な気持ちになるということ覚えておき、相手の気持ちを考えて行動したいです。

## 私が繋いでいきたいこと

3年1組 植木 優希奈

「こんなところに生えとったら、踏まれてしまうわ。」

きっかけは、父のある言動でした。

私は一昨年、庭でスイカの種飛ばしをしていました。私と妹がスイカの種飛ばしをしていたところから、一つのスイカの芽が生えてきました。それに気づいた私は、「めっちゃ踏まれそうなところに生えてきたなあ」と思いながら、気になって毎日観察をしていました。しばらくたって様子を見に庭に行ってみると、父がスイカの芽を見つけ「こんなところに生えとったら、踏まれてしまうわ。」と、芽を別の踏まれないところへ移動させていたので、成長を見守ることにしました。その時は、根付くかどうか分かりませんでした。しばらくたって花が咲いて実がなってきました。そして母がトレーを敷き、食べられるぐらいの大きさまで成長しました。スイカが大きくなってきた頃、母が言いました。「果物も野菜もそうやけど、人間で考えても一緒やな。」

その時、私ははっと気づかされました。父が踏まれないところへ移動させたこと。母がトレーを敷いたこと。私や妹がそれを見守ったこと。すべてが繋がって大きなスイカができたんだと思いました。一人が良いと思ってとった些細な行動が、人へ人へと連鎖して、一つの命を救うことができたのです。一つ一つの行動は簡単ですが、こうして繋がっていったことはすごく素敵なことだと感じました。そしてこれは、人も同じなのかもしれません。

しかし、このような良い結果に繋がる場合とそうでない場合があるのではないかと思います。それは何気なくとった自分の行動が知らない間に相手を傷つけてしまっていたという場合です。自分がとった些細な行動が原因になり、人間関係が悪くなったり、自分にコンプレックスをもつようになっていたりする場合もあると思います。そのようなことを防ぐには、自分が発する言葉や行動に責任をもち、相手を知らない間に傷つけてしまうことがないようにすることが大切だと思います。また、一人一人が小さな思いやりや優しさをもつことで相手を傷つけてしまうことはなくなると思うし、それが出来ていれば、世界中からいじめも戦争もなくなると思います。

そして、一人一人が小さな思いやりや優しさをもつことが出来れば、自ら命を絶つ人、絶たれる人は必ずいなくなるし、一人一人が尊重される世の中になっていくことを信じています。特別なことをするわけではありません。友達の消しゴムが落ちていたら拾ってあげる。忘れ物を届けてあげる。ゴミが落ちていたら拾うなど、本当に小さなことでいいと思います。誰のためにもなっていないと思っていることが、どこかで誰かのためになっっていることがあると思うし、そういうことをしようとする気持ちが思いやりの心を育てていると思います。全部全部繋がっていて、これこそが人権へ結びついていくのです。

私はこの経験から、相手の些細なことに気づき、気づいた上で相手を思いやった行動が出来る人になりたいと思うようになりました。そしてこれからもう一度自分を見つめ直して、父や母のように小さなことにも思いやりや優しさをもって、発言や行動が出来る大人になりたいです。あなたは人に対して思いやりや優しさをもって発言や行動ができていますか。あなたは見えないところで思いやりをもった行動ができていますか。私はそんな小さな気遣いを広めていきたいです。あなたも一緒にその気持ちを繋いでいきませんか。

今年の「校内人権作文意見発表会及び意見交換会」は、各学級の代表者1名ずつ6名が発表し、その後、それぞれの発表に対して意見交換が行われました。代表者の発表は、自分の体験から人権問題を考えた内容や人権問題解決に向けての提案がなされていました。どの発表も素晴らしかったです。意見交換会も1年生から3年生まで多くの生徒が積極的に意見を述べていました。暑い中でしたが、意見発表をよく聴き、発表者の意見に共感し、自分の行動を見直して、人権問題の解決に努力していこうという思いが伝わりました。

意見発表をしてくれた中から、学校代表1名が、8月9日（金）に本校を会場として行われる阿南市の「人権に関する意見発表会」に出場します。

## 夏季休業日中における熱中症対策について

本日、マチコミメールにて、「学校における熱中症対策について」を配信しました。「学校生活全般での熱中症対策」や「夏季休業日中を含む部活動における熱中症対策」等が掲載されています。学校では、生徒の命・安全を第一に考えて行動して参ります。各ご家庭でも、日頃の生活の中で十分ご注意くださいとともに、学校の取り組みにつきましてご理解・ご協力をお願いいたします。これまでも、二中だよりや保健だよりでお願いしましたが、夏季休業日中につきましては、次の点にご協力をお願いいたします。

- 規則正しい生活を送らせてください。（十分な睡眠と朝食は必ず）
- 健康状態がすぐれないときは、無理をさせず休ませてください。
- 生徒が家を出る前に健康調査の確認をお願いいたします。

有意義な夏休みにするためには、何より命が守られなければいけません。ご理解・ご協力よろしく申し上げます。